

檀信協だより

発行 静岡県中部檀信徒協議会

Vol.24

平成26年9月1日発行

編集 静岡県中部宗務所教化センター
http://www.myouhou.com/

合掌



宗務所長のあいさつ

静岡県中部宗務所長
常泉寺 貫名 英舜

静岡県中部宗務所管内寺院の檀信徒のみなさんには、日頃、菩提寺山門の護持丹精にご精進いただき、また、信行熱心に駿河の法華の伝統をお守りいただいておりますことに、深く感謝申し上げます。
さて、ご存じのように、宗門は平成三十三年に宗祖日蓮大聖人御降誕八百年の聖年を迎えるにあたり、僧俗が一体となって、「立正安国・お題目結縁運動」を進めております。この運動は平成十九年にスタートし、四期十六年にわたって行われるもので、本年は第二期（育成期）の最終年に当たります。この中間点を経過するにあたり、これまでの運動

の成果を振り返りつつ、来年から始まる第三期（開花期）につなげるために構想を練り直す作業が進められています。
現在、「合掌礼」の推進ということに重きをおいた運動を進めています。言うまでもなく、両手を胸の前で合わせ、頭を下げて敬礼を行う形は仏教徒の基本です。仏教が広がったアジアの諸国では日常的に行われているものです。これをもう一度私たちの生活の中に定着させようという運動です。
この合掌礼にはほとけさまへの尊敬を表すことに加えて、法華経においては「私はあなたを拝みます」という意味を表しているものとされま

す。日蓮聖人の願いは、「立正安国」です。一人ひとりの人格的完成が折り重なって、社会全体に広がる時に、全ての人が安心して暮らせる安穩な世の中になる。しかし、このような平和な世の中は、決して一人の努力によって出来るものではない。私とあなたがともに志しを同じくして、力を出し合っ

宗門運動
「立正安国・お題目結縁運動」平成34年3月31日まで
管区テーマ
『ひろめよう合掌の心』

平成二十六年度静岡県中部宗務所 「合掌の心」俳句募集・入賞句

- 掌 今開かんと蓮の花
富士宮市大久保 小泉 久代
- 経塚に 山百合句ふ 掌
富士宮市羽鮒 望月喜美子
- 手を合わせ 宇宙小さく 入れてみた
清水区草薙 北村 澄江
- をさな児の 掌を合わせ背 夏燕
富士市岩本 鈴木 一子
- 目を閉じて しせいただして 手をあわす
清水区興津中町 山田 好恵
- 合わす手に 慈悲のこころ 木葉木菟
富士市柚木 久能 満男
- 幼子の 合わす手のひら 蓮の蕾み
富士宮市羽鮒 渡辺 幸子
- 声にして 近況告ぐる 墓参かな
富士宮市淀平町 渡井ふじ子

第二弾
「合掌の心」俳句・短歌募集
応募期間 平成26年9月1日(月)～同11月30日(日)必着
※詳細問い合わせ 伝道事務長 遠藤 TEL0545-64-6668 dendou@myouhou.com

日蓮宗静岡県中部宗務所
〒416-0901 静岡県富士市岩本2184-2 實相寺内 TEL0545-64-6668
開所日:月・木・金 10:00～16:00
http://www.myouhou.com/

静岡県中部宗務所檀信徒協議会総会

於 富士市霊跡本山岩本實相寺(豊田英世貫主)



◆一食一円アシスト募金継続中です。
ご協力をお願い致します。

その後、客殿に場を移しての総会では、豊田貫主より「霊峰富士山のおひざ元より、御降誕八百年に向けて、法華経を拠りどころとした世界が平和な世の中を一緒に築いて参りましょう」と呼びかけが行われた。

続いて、後藤幸雄会長(吉祥寺護持会長)より「私達がお寺の応援団となり、合掌札を生活の中で実践し、子孫に伝えていきましょう」と語った。

議事では、行事・収支決算報告、全国檀信徒協議会報告、行事・予算案と滞りなく進み、社教会より、一食一円アシスト募金、写経活動を通しての支援活動の推進がアピールされた。

議事の最後に、宗門運動に関し、貫名所長より「身延山へのお参りを通して信仰を深め、家庭から合掌をして挨拶の出来る環境を築いて欲しい。また各寺院で次世代を担う若手人材を發

掘、育成し、僧俗一体となって宗門運動を推進して行きますように」と呼びかけが行われた。

休憩の後、中條副長(本能寺住職)より「實相寺と立正安国論」と題した講義が行われ、大聖人が岩本入蔵した巡礼の聖地での講義に、皆興味深く耳を傾け、「合掌のこころ」を保つ大切さを実感することのできる、有意義な総会となった。



お知らせ

一、身延山大学公開講座開催のお知らせ

日時 平成二十六年十一月四日(火)
午後二時より受付開始

場所 富士市交流プラザ

※詳細は決定次第ご案内致します。

二、「合掌の心」(ラジオ法話)のご案内

毎月第一、第三水曜日、午後4時20分より
ラジオエフ(FM放送)84.4Hz 富士・富士宮地区限定

※エリア外、聴き逃しについては、当宗務所ホームページにて何時でも聴くことが出来ます。

基調講演法話

静岡県中部宗務所副長「中條 曉秀 上人」(清水区本能寺)

六月十九日(木)、富士市霊跡本山岩本實相寺(豊田英世貫主)に於いて、管内寺院・教会・結社檀信徒代表者・宗務所関係者が出席し、平成二十六年度静岡県中部宗務所檀信徒協議会総会が

開催された。

総会に先立ち、祖師堂にて、平成二十二年六月から今日に至るまでにご逝去された各寺院総代・護持会長等の物故者追悼法要が営まれた。

「実相寺と立正安国論について」



ず。万民既に大半を超えて死を招き了ぬ(定遺四二二頁)と記されている。その惨状は、「近年より近日に至るまで天変・地天・飢饉・疫病・遍く天下に満ち広く地上に迸る。牛馬巷に斃れ骸骨路に充てり」(定遺二〇九頁)と始まる安国論冒頭の一節によって明白である。

内容と目的とを最も適確に表現するとともに、日蓮聖人の宗教観を適切に表示した四字熟語である。「立正」とは正法を立てること。いうまでもなく正法とは法華経のこと。「安国」とは日本乃至一閻浮提(全世界)の万民を安穩にすること。つまり一閻浮提を仏国土とするの意である。

鎌倉名越の草庵にあってこの惨状を直視した日蓮聖人は、かかる天変地異の興起の由来と対治の方法を仏典に求めて、翌正嘉二年正月「日蓮此事を見て、駿河の国岩本の経蔵に容り、諸経論を引いて、之を勘へ之を見る」(『法華本門宗要抄』定遺二一六〇頁)と、岩本実相寺(静岡県富士市)の経蔵に入っ一切経を披閲(よく調べる)こと)したことを記している。

浄仏国土顕現するは、菩薩たるものの必須の誓願である。しかるに、日蓮聖人が在世当時最も隆盛を誇っていたのが法然浄土経。その法然(一一三三～一二二二)はこの菩薩心を雑行として捨て、専ら称名念仏を勧め、唯だ西方極楽往生を人生の目的とせよ、と説いた。

日蓮聖人はこれは宗教の荷うべき責務に沿うものではないことを表明する意味もあって、「立正安国」の題号を立てた。

念仏を破すれば、立正安国の旗幟は鮮明となる。よってこの題号を選ばれたに違いない。法華経の理想は立正安国にある。

◆十番問答のこと

『立正安国論』は鎌倉時代特有の漢文体で、国諫の書のためか修辭に意を用い、典雅な文章で綴られ、旅客と主人との十番問答から成る。

一番から八番までは、既に興起した天変・災難・飢饉・疫病の由来を追求し、それは邪法の流行によるものとして念仏破邪を説くから序論に相当する。

九番は、未起の災難たる他国侵逼・自界叛逆の二難が到来するであろうと予言して、法華信仰への破邪帰正を勧める。これが有名な「汝早く信仰の寸心を改め」から始まる六十四文字(漢文の文字数)で結文となり本論に相当する。

十番は、客の領解と入信の告白を述べたものであるから結論に当たる。

◆むすび

『立正安国論』は「安国」を語るのだから、当然の

ごとく「国」の字の引用頻度は高い。

国宝の安国論(千葉県市川市・法華経寺蔵)から「国」の字の用例を見ると、最も多いのが「國」の四十四、「国」が十二、「國」が四、の三例を見る。正字は「國」(当用漢字では国)であるが、日蓮聖人は「國」を多用する。勿論意味は変わらぬが、正字をなぜ用いなかったか面白い。

国とは人々(民)が生活する場である。その生活が脅かされる。生活環境が破壊される。日蓮聖人にとって、それこそいってもたつてもいられない大問題であった。

法華経の壽量品には「我此土安穩」と示されている。私の眼から見れば、現実のこの世界(娑婆世界)は必ず安穩な世界になる。成ることが必ずできる、と説かれている。今こそ、立正安国の精神を以て、事に当たらないければ、何の解決にもならない。

◆岩本入蔵のこと

『安国論奥書』に、「正嘉元年八月二十三日の大地震を見て之を勘ふ」(定遺四四二頁)とあって、述作の直接の動機が正嘉元年(一一五七)の鎌倉大地震にあったことは明らか。そして、『立正安国論御勘由来』によると災禍はその後も続き、「同二年八月一日大風。同三年大飢饉。正元元年大疫病。同二年四季にわたって大疫已ま

◆題号のこと

「立正安国」の四文字は、